

# 暑熱対策分科会

---

令和2年10月23日

関東地方環境事務所  
(みずほ情報総研株式会社)

# 暑熱対策分科会 ① 概要

## テーマ：夏期の気温上昇による熱中症対策

関東地域では、特に内陸を中心として夏期に高温となる地域が多い。これに伴い熱中症による搬送者・死亡者数も増加しており、各自治体で熱中症対策への取組が進められている。より効果的かつ広域的な取組を促す広域アクションプランの策定を目指す。

### <アドバイザー> ※敬称略

国立環境研究所 客員研究員 小野 雅司

### <オブザーバー>

なし

### <メンバー>

(8/14現在 ※8月末に分科会メンバーの追加募集を実施予定)

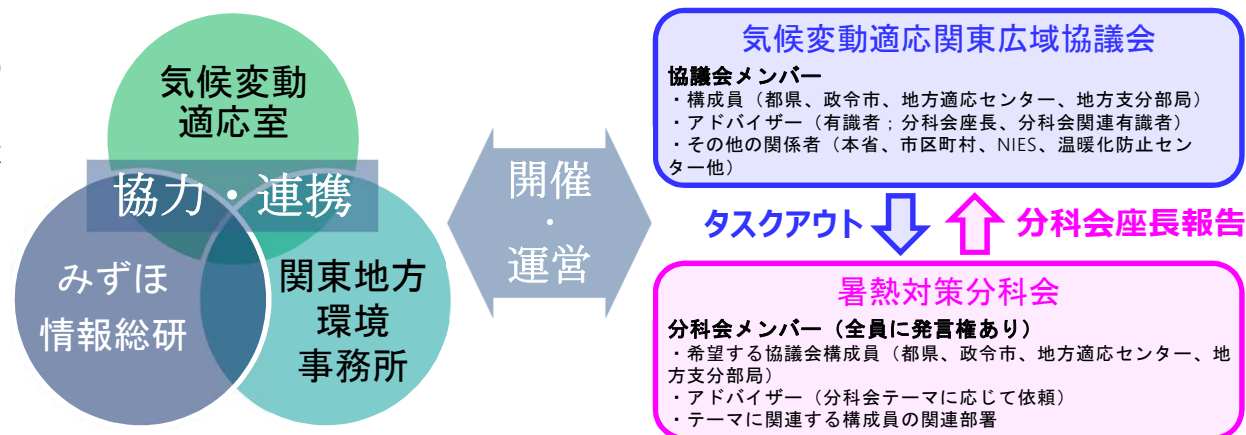
種別	メンバー
地方公共団体	茨城県、埼玉県、千葉県、神奈川県、新潟県、山梨県、静岡県、さいたま市、千葉市、相模原市、新潟市、静岡市、浜松市
地域気候変動適応センター	茨城大学、埼玉県環境科学国際センター、神奈川県環境科学センター、静岡県環境衛生科学研究所、川崎市環境総合研究所
地方支分部局	農林水産省 関東農政局、農林水産省 北陸農政局、気象庁 東京管区气象台
企業 ほか	—

### <実施体制>

暑熱対策分科会の実施体制は右のとおり。

気候変動適応室・関東地方環境事務所と緊密に連携し協力を図り、広域協議会および暑熱対策分科会を開催・運営する。

(現時点では、調査の協力機関の想定はない。)



# 暑熱対策分科会 ② 課題認識と想定されるアクション

## これまでの気候変動影響

- 近年の気温の増加に伴い熱中症搬送者数は上昇傾向
- 年代別では高齢者（65歳以上）の割合が高い。
- 性別では男性の方が多く、屋外での作業が熱中症発生要因とされている。

## 想定される将来の気候変動とその影響

- 気温が高いほど熱中症は起きやすく、将来の気温上昇に伴い、熱中症搬送者数は全国で増加すると予測されている。
- 熱中症は、熱環境（WBGTや気温）といった熱的要因に加え、年齢や既往歴といった個体要因、活動場所や冷房の設置・使用状況といった社会的要因等にも大きく依存する。

## 現状の課題認識

- 将来の気候変動及び高齢化社会を踏まえると、より一層熱中症のリスクが高まることが想定される。
- 熱中症発生は主体や業種等ごとに特徴がみられるため、各主体等で効果的な対策が異なることが想定される。

## 想定される適応アクション

- 熱中症に対する脆弱性が高い主体（高齢者、子ども、作業従事者等）への注意喚起
- 熱中症を発症しやすい条件下（室内就寝中、屋外作業中、イベント開催時他）の注意喚起と対応策等の情報提供
- 熱中症警戒アラート（試行）の適切な伝達と回避行動に関する計画及びマニュアル等の作成

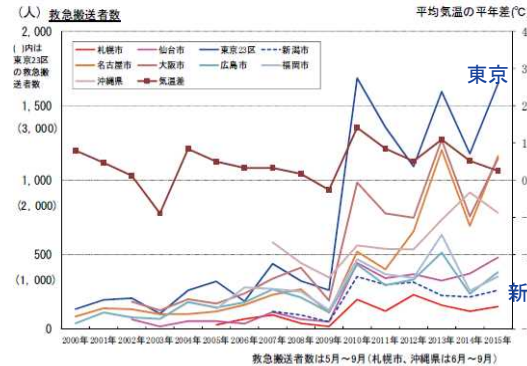


図. 熱中症搬送者数の推移 (国立環境研究所HPより)

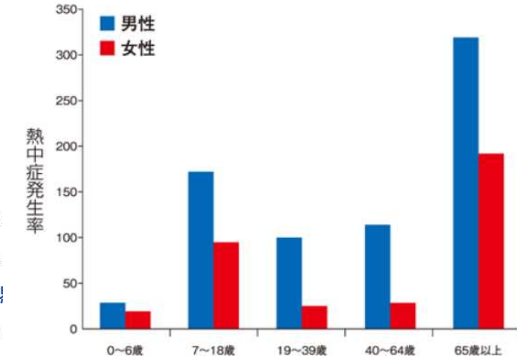


図. 性別、年齢階級別に見た熱中症患者の発生率 (国立環境研究所HPより)

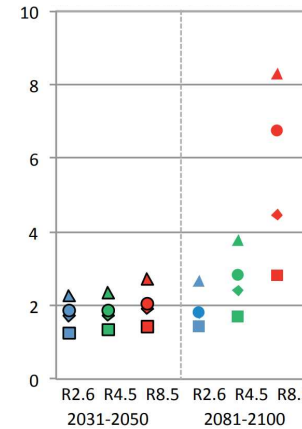


図. 将来の熱中症搬送者数の予測 (環境省S-8より)

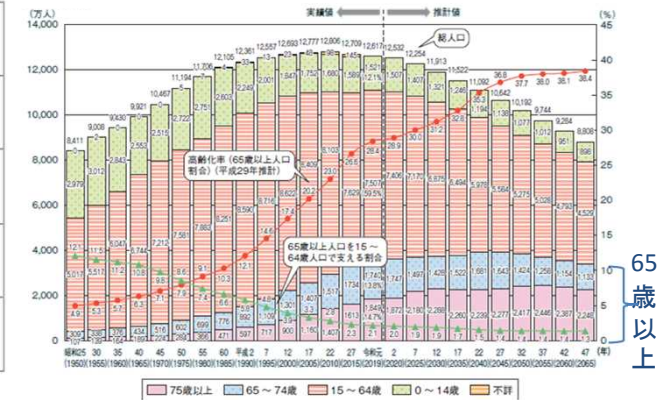


図. 将来の人口構成の推移予測 (令和2年版高齢社会白書より)

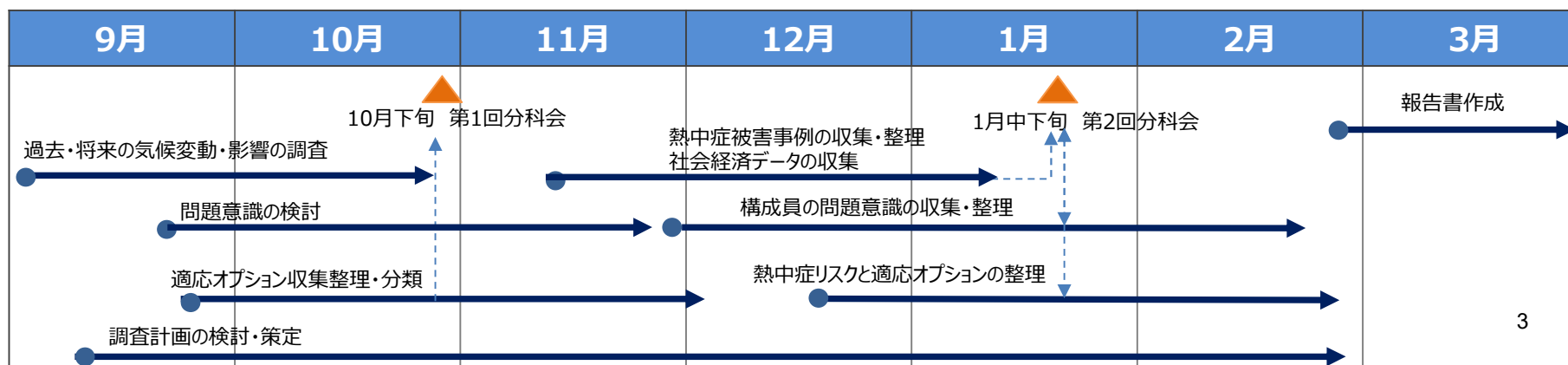
## 暑熱対策分科会 ③ 令和2年度実施計画

### <実施業務及び手法>

- 各実施項目について、調査の方法または取りまとめの方法を下表に整理した。

項目	調査の方法/とりまとめの方法
熱中症に関する過去および将来の気候変動影響に関する情報収集、整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>気象庁や環境省等の政府HPや事業、調査研究（S-8）資料から、過去及び将来のWBGTや気温等の気候指数や人口等の社会経済データ、熱中症救急搬送者数のデータを入手・整理</li> </ul>
分科会関係者の課題認識に関する意識調査の実施、及びとりまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の課題認識に関するヒアリングやアンケート等を実施し、整理する。</li> <li>今夏に実施されている「熱中症警戒アラート（試行）」の結果も活用を検討する。</li> </ul>
熱中症における適応オプションに関する情報収集、実現可能性の高いオプションの調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>政府が発行する熱中症対策施策等を収集し適応オプションを抽出・整理する。</li> <li>熱中症予防情報サイトから提供されている暑さ指数データの活用を検討する。</li> <li>分科会関係者の課題認識を踏まえ、複数の軸の検討に着手する。</li> </ul>
広域アクションプランの策定を見据えた調査計画の策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の課題やニーズを踏まえて調査計画を策定する。</li> </ul>

### <令和2年度 スケジュール>



暑熱対策分科会 ④ 実施計画（令和2-4年度）

活動	令和2年度	令和3年度	令和4年度
課題整理 調査計画 の策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査計画の策定</li> <li>自治体が有する課題や問題意識の整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度の調査を踏まえた調査計画のブラッシュアップ</li> <li>自治体が有する問題意識の深堀り</li> </ul>	
調査・ 情報収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来気候シナリオ予測（気温、湿度、降水量他）の収集</li> <li>影響や社会経済データ収集（熱中症救急搬送者数データ：時間、場所、状況等）</li> <li>熱中症リスクの把握と適応オプションの調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気候変動、社会経済データ、適応オプションの最新情報収集</li> <li>熱中症への適応行動（予防・回避等）に関する課題や促進に関する調査</li> <li>自治体等が実施する取組の調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気候変動、社会経済データ最新情報収集</li> <li>適応行動に関する課題や促進に関する追加調査</li> <li>自治体等が実施する取組の追加調査</li> </ul>
アクション プラン	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱中症リスクと適応オプションの整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市区町村レベルで地域特性や対象者を踏まえた熱中症リスクと適応オプションの整理</li> <li>実施可能性のある適応オプションの検討</li> <li>広域アクションプランの枠組み検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広域アクションプラン策定</li> <li>地域適応計画へのローカライズの考え方の整理</li> </ul>